

第5回 調査・広報委員会の概要

日時：平成26年2月20日（水）13：30～15：30

場所：農林水産省 生産局第5会議室

出席：関係団体

（全国い生産団体連合会、全日本豊事業協同組合、全国い製品卸商業団体連合会、全国豊材料卸商組合連合会、全国豊材商社会、全日本 JIS 豊床工業協同組合、全日本 ISO 豊振興協議会、全国豊産業振興会）

：オブザーバー

（日本建築士会連合会、東海機器工業株式会社、農林水産省）

議事概要：

1 消費者アンケートの実施状況について

各団体に送付した消費者アンケートの進捗状況について、

- ・1,200部印刷し、八代トマトフェスタ会場等を活用し、回収は466部（全国い生産団体連合会）
- ・県団体には発送済。（全日本豊事業協同組合）
- ・各県団体には送付済。〆切は2月末に設定。（全国い製品卸商業団体連合会）
- ・2月初旬に発送。〆切は3/15（全国豊材料卸商組合連合会）
- ・構成会社には送付済（全国豊材商社会）
- ・構成員に発送済。役員会で催促を行う。（全日本 JIS 豊床工業協同組合）
- ・構成員にメールで送信済。進捗状況を確認する。（全日本 ISO 豊振興協議会）
- ・250枚は他社に依頼し、250枚は3月上旬のイベント等で実施する予定（東海機器工業株式会社）
- ・その他数名の団体にも送付済

との報告が出され、50%以上の回収を目標に実施することとされた。

2 会員内外への連絡・意見集約、方法について

会員内外への情報伝達について協議がなされ、

- ・規約原案等ができ、具体的に当事者がすべきことを具体的に説明できないと、なかなか理解を得られにくい。
- ・パンフレット配布により、注意喚起はできているが、その問い合わせに対し、適切に答えられるようにしないと混乱する。
- ・情報を求めて連絡会に加入した会員への情報提供が全くできておらず、連絡会員からは不満の声も聞かれる。
- ・異なるロットを同時に施行する場合など、現場視点の細かな問題も発生することが考えられ、現場の意見を聴くことは必要。
- ・委員会をオープンにして、公聴可能にすることも検討すべき。
- ・連絡会への情報伝達は、決定事項の通達ではなく、経過報告であり、それに対する

意見を求めるものであることを認識すべき。

等の意見が出された。

3 地区説明会について

おもに、連絡会内外への説明会について協議がなされ、

- ・周知を徹底するためには、県単位での説明を行う場が必要。
- ・構成団体の総会を活用すべき。
- ・調査・広報委員会単独で主催するには限界があり、前回同様のブロック開催が適当ではないか。
- ・会場は前回同様、公的機関の会場を活用し、コスト削減することも検討すべき。
- ・地区説明会の日程を考慮すると全体のスケジュールの見直しが必要。

等の意見が出され、上記と合わせ

- ・連絡会会員への情報提供を行う。
- ・説明する場については、委員会が主催するブロック単位の説明会と、県単位の組織が自発的に行い、状況に応じて委員会が補助する。

こととした。

4 次回の日程について

3月13日（木）13：30開催予定。